

ささやく声に耳を澄ませて

谷口 ^{まさし}尚志 (福岡司教区司祭)

222 内側から温められて

●ヨハネ20・19-31

私は叙階された年の冬に末端冷え性を経験してから後、毎年、冬になるとその症状と向き合いながら過ごしています。寝る時が最もこたえるので、つい最近まで布団乾燥機の温め機能で温めてから潜り込んでいました。年末年始、北部九州地域でも大寒波が襲来し、その時はさすがに日中でもこたえるほど手も足の指先もキンキンに冷えておりました。結局、エアコンやガス、石油ストーブなどで外側から温めてもその温かさがなくなれば、内側から温まるしかありません。

きょう、復活節第2主日ではユダヤ人を恐れて戸に鍵をかけていた弟子たちのもとに復活された主イエスが現れる場面が福音として読まれます。「平和があるように」(19、21、26節)と繰り返される主イエスの言葉が彼らを内側から温めていく様子が伝わってきます。恐れにとらわれた弟子たちの姿はまるで寒さの中で震える人のようで、寒さのために動けずにいるのです。そんな中、主イエスは彼らの真ん中に立って(19、26節)内側から温めることで恐れから解放されます。「わたしは決して信じない」(25節)と言ったトマスも内側に働きかける見えない温かさに気付くことで派遣される者となります。

トマスに「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」(27節)と言われた主イエスの言葉は、ご復活の出来事が、内側から温める出来事であることを私たちにも教えているようです。私たちキリスト者に与えられた使命である宣教へと向かうためには、まずこの温かさを実感していなければなりません。この温かさを実感しながら聖霊のはたらきを意味している“息を吹きかける主イエス”(22節参照)に派遣されることで、宣教は実りを得るからです。その実りは「平和」そのもので、この実りを得るために内側から温める「平和」を主イエスは与えてくださいました。

つまり、宣教というのは、与えられた「平和」をもって「平和」を伝えていくことに他ならないということになります。命あるものは内側から温まらないと体を動かすことはできません。神は外側から私たちが動かそうとする方ではなく、内側から動かす方であることを受けとめ、主イエスの「あなたがたに平和があるように」との言葉が私たちの口からも伝わっていきますように。

「ふくいんひろば」指導のヒント●イエスさまはかたくなに閉じてしまった心のカギをあけてください。わたしたちがなかなかイエスさまの顔をみるのが怖い時でも、イエスさまはやさしく包んでくださいます。ですから、イエスさまに信頼して、おそれや不安をイエスさまに話しましょう。